



岡山県高梁市の吹屋地区「広兼邸」

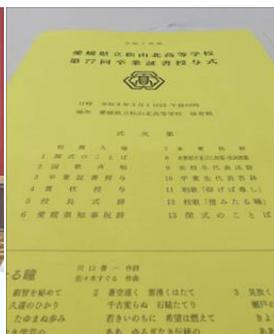
早春のおたより

やわらかな春の日差しがうれしい季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。3月1日、ほとんどの県立高校で卒業式があり、私は母校松山北高の卒業式に同窓会監事として出席しました。

藤井風の『旅路』の歌詞、「僕らはまだ先の長い旅の中で 誰かを愛したり 忘れたり 色々あるけど あーあ この日さえも懐かしくて 全てを笑うだろう 全てを愛すだろう」を例えにした卒業生の答辞を聞きながら改めて、多感な年ごろの高校生はきっと苦しかったり楽しかったり、悩むことの方が多かったらうと感じました。

また、「支え合った仲間、一番近くで支えてくれた家族がどれほど温かい存在だったか “当たり前” がどれほど尊いものだったか」と振り返り、「不安より希望、迷いより挑戦を胸に、これからも前進します」と力強い決意表明をしてくれました。校長先生から「貴方たちの存在は何事にも代えがたい」と述べられ、そして難しい言葉で『実存は本質に先立つ』を伝えた母校の卒業式は、感動・感激・感心でしかありませんでした。

すべての高校3年生の皆さん、ご家族の皆さん、ご卒業本当におめでとうございます。



令和8年3月1日

(株)日本交通社

代表取締役社長 光田秀之

